

様式第3号(第4条関係)

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 令和6年度 丹波篠山市総合計画審議会 専門部会③
- 2 開催日時 令和7年3月18日(火) 13時30分から15時00分まで
*受付時間(13時15分から13時25分まで)
- 3 開催場所 丹波篠山市役所第2庁舎3階301・302会議室
- 4 会議に出席した者の氏名
 - (1) 委員 森本 秀樹、田代 優秋、大前 裕樹、小田垣 昇、廣瀬 章江、安部 梨杏
欠席委員 今井 めぐみ、藤本 清仁、小川 昌秀、大西 富美子
(敬称略・順不同)
 - (2) 執行機関 藤田 尚位、西尾 友寛、竹内 一真
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 議題及び会議の公開・非公開の別 公開
- 7 会議資料の名称
第3次丹波篠山市総合計画後期基本目標各論(案)について資料1、資料2
- 8 審議の概要
 - 1.開会
 - 2.協議事項
 - (1)第3次丹波篠山市総合計画後期基本目標各論(案)について

(事務局)

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

早速ですが、定刻になりましたので、ただいまから丹波篠山市総合計画の専門部会を開催させていただきます。この専門部会では基本目標3、6についてご意見いただければと思います。それでは次第に沿って進めさせていただきます。

3-1-1について、まず全体を通しての意見であるが、関係人口が増えているということで、都会の人とか農業体験や里山保全に巻き込む活動も加えてはという意見をいただいている。

(A委員)

ここで記載すべきか分からないが、どこかに交流人口とか関係人口とかの言葉が必要かと思う。

(事務局)

各基本目標の施策のところの関係人口という言葉は出てくる。各基本目標にそういうフレーズを入れていくべきかと思うので、ここは全体を通して検討していきたい。

次に小目標でめざすことで「積極的に活かす」というふうに、ご意見を頂いている。こちらはいかがか。

(A委員)

これは強調して書いたらどうかと思う。

(B委員)

成果指標のところ、森林整備面積について、全体の森林面積の中でどれくらい占めているか割合を示したほうが良いのではないかと。全体の森林を整備する目標があるのであればそれに対して何ヘクタールまでもっていくとか。全体の森林整備面積のうちの割合をいくりにするとか、そういう方が市民の方には分かりやすいのではないかと。と思う。

(事務局)

このあたりは担当課と調整する。

(事務局)

次に成果指標について、登山客やキャンプなどの娯楽施設の利用というような指標でも良いのではという意見を頂いている。

(A委員)

数値があれば良い。

成果指標の間伐材の積極利用のところで、前期基本計画の2025年の目標が1万7000 m³になっていたのが、目標4000 m³以上と減っている。何か理由があるか。

(事務局)

県の予算の増額が見込めないことから現状の数値に変更となっている。

(C委員)

そういう注釈とかは入れないほうが良いのではないか。

前期のときに作った目標が達成できない状況になっているというのは、明確にしておくほうが良いと思う。

(A委員)

この審議会自体が5年経った時点での評価という位置づけだと思うので、逆に達成できていないのは何か理由があったとか注釈があってもいいような気がする。

(事務局)

数字を変えるため、何らかの形で明確にしておく必要があると思う。理由をお示しできるような形を検討していきたい。

(事務局)

では、次に「環境保全活動とは具体的にどんな取り組みなのか」というご意見を頂いている。他の部会でも意見があり、文言についての説明を付した上でお示しするという必要という意見も出ていた。全体的に直していきたいと思う。

次、現状と課題のところで、「また森林は人を育むことができます」というところに意見を頂いている。

(D委員)

「森林が人を育むことができます」というのは分かるが、これどういうふうに人を育むのか分からなかったので、分かりやすい表現があるといいと思う。

(事務局)

ここは担当課と調整する。

(事務局)

次、現状と課題のところに「日々の暮らしと自然環境に負担をかけずに修正」というご意見いただいている。

(C委員)

再生可能エネルギーは、風力発電やメガソーラーがイメージとして出てくる。私の意見としては、森林を伐採とか、海面を潰してまで再生可能エネルギーが全国各地で増えているので、ここにそのまま再生可能エネルギーを最大限に利用すると記載するのはよくないと思う。記載するとすれば、日々の暮らしだけでなく、自然環境を守るというのを付け加えたい。よって、ここは「日々の暮らしと自然環境に過度の負担をかけず」という記載にすべき。今後どうなっていくかわからないので、総合計画としてはこれ以上自然環境を破壊してほしくないという記載にしてほしい。

(事務局)

付け加える方向で調整する。

楽しみながら（カッコよく）というところを（快適に）とすべきと指摘を頂いている。

(D委員)

快適にという表現なら分かりやすいかと思う。

(事務局)

承知した。

次、施策の展開の方向について、ここに記載しているように変えていきたいというご意見をいただいている。

(C委員)

森づくり構想の内容もできるだけこちらに反映していきたい。

(事務局)

施策の展開の方向に盛り込んでいくということかと思う。森づくり課にも再度確認をさせていただいただく。

(A委員)

一番下のコメントは私が書いた。加えていただいたらどうかと思い、記載した。

(事務局)

調整する。

(事務局)

次に主要な取り組みの概要、広葉樹の利用促進を追加ということで、こちらも担当課に確認する。

次、市民・事業者と行政の協働の役割というところと、行政の役割にもご意見を頂いている。

(A委員)

この自伐型林業は市政方針で書いておられたと思うので、連動すべきだと思う。これはここだけの話ではなくて、全体的に市長の施政方針で書かれている内容が盛り込まれるべきだと思う。

(事務局)

施政方針で市長が示した部分は、ここに入れるべきかと思う。担当課と調整する。

(事務局)

次、3-1-2 ごみの減量化と再資源化を推進するというところの成果指標について、ご意見をいただいている。このご意見に関してはいかがか。

(A委員)

ゴミ処理がうまくいっている先進的な他市の数字などがあればと思い、書いた。ここだけでなく全体通しての話ですが、目標として適正なのかよくわからない。ゴミを減らす方向で目標設定をされているわけですが、例えば、もっと同じぐらいの都市でゴミ処理について先進的に取り組みをされているようなところの数字を併記するのはいかがか。

(事務局)

他市にもこのような指標は何らかの形であるかと思う。総合計画の中に書き込むのか別にして、それらと比較してどうなのか、その根拠というのは必要かと思うので、整理して担当課とも調整していきたい。

(C委員)

プラスチックごみの資源化量を目標にしているが、そもそもプラスチックごみをあまり出さないような生活っていうのも大事だと思う。難しい問題かと思うが、ゴミの減量化ならそもそもゴミを出さない生活をしましょうというところもどこかに加えた方が良いと思う。

(事務局)

ゴミを出さないというふうな形での記載というのは、目指す方向としては記載をしていくべき部分かと思うので、どこかにそれを記載していくというような形で対応していきたい

い。

(E 委員)

その指摘はとても大事な指摘だと思う。その言葉は、リユースの概念として施策の展開の方向というところの3Rの推進というのがあるので、盛り込まれていると思う。

(事務局)

承知した。

(E 委員)

成果指標のところ現実的な数値への見直しは良いか。

(B 委員)

農業分野でも同じように予測になっている目標値がある。部署によって達成可能な予測値になってしまったりしている。その見極めは非常に難しいと思う。

(A 委員)

すごく努力して下方修正するということであれば、その記載があれば良い気もする。数字だけ見ていると、取り組んで努力をした結果こうなんですというのが分かりにくい。

(E 委員)

ちなみに言うと、家庭系ごみの1日1人当たりの発生量を10g減らすっていうのは、相当に大変なことである。市民およそ4万人の人たちが全員10グラムを減らさないということなので、なかなか難しい。ただ、数値としては、たった10グラムと見えてくる。すごく表現が難しいという気がする。

(事務局)

目標値については、統一的な考え方で示していないのが現状。ただ、現状を踏まえた中である程度トレンドを見て目標値を設定していると思う。必ず一定の考え方を持って目標値を設定しているということではない。ただ、数字が変わったところについては、なぜ変えたのかできるだけ根拠を持って、数字の設定をしていくべきかと考えている。

(E 委員)

予測値なのか目標値なのか位置づけをすべての分野で考えた方が良い。現状推移型なのか予測型なのか等を検討した方が良い。

(事務局)

承知した。そのあたり、整理できるようにしたいと思う。

次に主要な取り組みの概要のところ、行政の役割について2つご意見をいただいている。こちらに関して、いかがか。

(A委員)

上は私が書いた。抽象的なことしか書いていないので、これは一つの例として、ゴミを減らす方向でいくのであれば、何かここに書いてある文言ではなく、具体的にゴミをどう減らしていくかということを書くべきである。

(E委員)

今、コンポストの取り組みも行っている。

(事務局)

このあたりも、一例を入れてはどうかということで検討したいと思う。

(C委員)

コンポストの補助金とかも書いても良いのではないか。

(事務局)

行政の役割のところ、考えたいと思う。

(事務局)

次、埋め立ての処分地の残余量が少なくなっているのは、ここはよく言われているので、清掃センターの方とも詰めさせていただきたいと思う。

次3-2-1に移る。こちらの小目標については、文言等の修正についても、ご指摘いただいているので、担当課とも相談しながら修正をしていきたいと思う。何か意見はあるか。

(D委員)

このページの下で2つで言うと、上の方は、地域の人を中心となって農業を支えていくという考えで、もう一つの方は、関係人口、市内だけではなくていろんな人が関わってという全く違う書き方になっている。基本的には、これから関係人口を増やしていくということで、市外の人に関わっていけばすごくいいと思う。

一方で、財力に物を言わせて、丹波篠山の土地だけをうまく利用されてしまうと、これも問題がある。このあたりを事務局の方でうまく表現していただきたい。丹波篠山の農業を応援していただく関係人口を増やしていきながらも、地域で取り組んでいる農業者が中心と

なっていくというような表現があると良いと思う。

(事務局)

承知した。

次に成果指標に移る。こちらについていかがか

(B委員)

成果指標について、生産組合の加入組織というところで、生産組合が高齢化してきており、営農形態としても大規模農家が増えていく中で、草刈りとか水管理もされてはいるが、今求められている大きな課題がある。加入組織数よりも、去年の5月に全農家4,563戸と3万4,000筆それぞれの田んぼで何年作れますかということ进行调查している。校区ごとに担い手をどうしていくかということで、農業に担うものを明確にしている。10年先の田んぼの担い手というのを明確にしているが、下側のグラフを見ていただいたら平均65%となっている。丹波篠山の3万4千筆のうちの10年後に担える田んぼの数は65%しかない。地区ごとによるが、34%しか10年後の担い手がいないという状況が出ている。むしろ、生産組の数よりも農業を担う者が、平均65%をどこまで上げるかというふうな指標に変えたらどうか。

それから、2つ目の認定農業者数について、やはり高齢化とか今年は米価高いですけど、米価が下落していく中で、次の跡取りが認定農家にならないとか、計画が立てられないということが出てきたりしている。一方で、新規就農者も含めたほうがいいんじゃないかと思う。

3つ目は特産物の作付面積ということで、面積というのが高齢化していく中で果たして面積でよいのかと思う。資料の下側に黒大豆の収量と品質を書いているのですが、黒大豆の収量がかなり落ちてきている。どうやって反収量を上げるか、それから2L率以上の割合が過去10年間82%だったが、今72%ぐらいということで下がってきている。あと、整粒率という品物になる割合も下がっている。面積から黒大豆の反収とかに変えるのも一つの考え方かなと思う。

(C委員)

B委員さんがおっしゃったとおり、今集落営農っていうのは、これから後継者不足で、しんどいところがたくさん出てくると思う。前期基本計画に出した成果指標の目標を変えてもいいのか。

(事務局)

そこは問題ない。現状に即した形を取る方がいいと考える。

さきほど委員の方から農業に担うもの、農地の収穫率、認定農業者にプラスして新規就農者を入れてはどうか。あとは黒大豆の収量というところで、現状に即したような形の指標の方が望ましいとご意見をいただいた。担当課とも詰めさせていただきたいと思う。

(D委員)

やはり丹波篠山と言うと、黒豆の街という大きなブランドがある。それが今の農業者数の減少の予測のままでいくと、黒大豆の面積も大きく減ってしまう恐れがあり、そうなるとブランドが毀損される恐れがあるので、黒大豆の面積というのは、記載した方がいいのではないかと思う。黒大豆と枝豆、山の芋、小豆それぞれの本来の目標の面積が記載されるといいと思う。

(事務局)

承知した。

成果指標についてはこのような形で調整をさせていただきたいと思う。

(事務局)

次に、現状と課題というところで、このあたりについても調整したいと思う。

次、施策の展開というところでご意見をいただいている。

(B委員)

施策の展開の方向のところに半農半 X という言葉が出てきているが、大事な言葉かと思う。

(事務局)

このあたりのことについては施策の展開の方向で取り入れさせていただきたいと思う。

(A委員)

新規就農者への参入障壁に少しハードルが高いと感じている。参入障壁を減らすようなことができるのであればそれを促進してもいいのではないか。あと、移住者が農地を取得できるようなこと。農地である程度面積が欲しい移住者もいて、家庭菜園程度の農地が欲しいみたいな人とマッチングがうまくできると、景観を守りながら農地も守れると思う。そこを行政がうまく方向づけをしてもらおうと良いと思う。ここに書くべきかどうか分からないが意見として出す。

(C委員)

山も欲しいっていう人もいるし、全国的にそういう人を受け入れますというアピールってのは丹波篠山市でも必要じゃないかと思う。農地を欲しい人とのマッチング、若い人への援助っていうのはすごくこれから大事だと思う。篠山を愛する人に守ってほしいので、それは本当に大事だと思う。

(事務局)

大事な視点かと思うので、行政の役割のところでも検討していきたい。

(事務局)

次に 3-2-2 で全体的にいかがか。

(B 委員)

成果指標の水耕栽培面積のところ、前の計画では面積の 50%以上ということを書いているが、農都のめぐみ米が 466ha なので、それを想定して修正していけばと思う。

(事務局)

承知した。

次、3-3-1 について、全体的にいかがか。

(A 委員)

国際博も決まっている話なので、ここに入れるべき文言だと思う。

(事務局)

国際博をきっかけにこんなことをしていきますというような内容を検討したいと思う。

(A 委員)

JR 篠山口駅周辺まちづくりビジョンというのが作成されている。観光客を受け入れるという観点から、加えていただければと思う。

(事務局)

承知した。

次に 3-3-2 について全体通して、いかがか。

(D 委員)

丹波篠山に興味のある方が非常に多い。ここの目標はもう少し高く掲げていただいた方がいいのではないかと思う。

(A 委員)

市長の施政方針にインバウンドという言葉ではなくて、ユニバーサルツーリズムと明記されてたように思うので、ユニバーサルツーリズムも入れた方が良くはないか。

(事務局)

承知した。

次 3-4-1 について、全体的にいかがか

(A 委員)

このページのタイトルに元気な商いですというタイトルのわりに記載があまり元気そうじゃない。もう少し誇っていいのではないかという気がする。

(事務局)

承知した。

次 3-4-2 について、全体的にいかがか。

(A 委員)

地元から市内事業者の就職率を書いているが、内訳を書いていただく方が良いと思う。高校によって就職するか進学するかの割合が違うので、この高校に対してこのようにアプローチしましょうとかの指標になるので、細かい分析があると良い。

(事務局)

承知した。

では次に基本目標 6 に移る。

6-1-1 について、全体的にいかがか。

(B 委員)

日本農業遺産のことについて、触れてもいいのではないか。

(事務局)

承知した。

次、6-1-2 について、全体を通していかがか。

特に無ければ次 6-2-1 に移る。

(C 委員)

テレビ、ラジオなどのメディアで報道された件数について、今の情報はテレビ、ラジオでは取らない時代になったので SNS が中心だと思う。もう少し媒体を検討してすべきかと思う。

(事務局)

現状にあったような数値を確認する。

(D委員)

海外の人たちに向けた発信も必要と思う。

(E委員)

言葉としては簡単だけれど、行政施策としては難しいものがあると思う。これを入れてこれは入れないということはどのように決めるか。方向性はあるか。

(事務局)

今回この部会でいただいたご意見については、各担当課に再度、確認を取らせていただく。担当課を通じて市の考え方を整理した上で各委員さんにお示しをしたいと考えている。

(事務局)

基本目標3、基本目標6ということで、整体的なご意見があれば伺うが、いかがか。

(A委員)

既に市役所の方で実施されていることとか、良いこともされていると思う。すでに実施していることや、市長が目標にしていることは、積極的にここに盛り込まれたら良いと思うし、市役所の皆さんがよく頑張っていてやっていただいているなっていつも思うので、それをどんどん自慢して書けば良いと思う。

(事務局)

基本目標3と基本目標6についてご意見をいただいたが、他の基本目標のところでも、何かお気づきの点はあるか。

無いようなので、これで終了する。本日も忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございました。

以上